

## 編集後記

本史料集は茨城大学図書館所蔵「文化六年石神組御用留」を約二年かけて東海村と茨城大学の共同編集作業によって翻刻出版したものである。史料集の共同編集は東海村にとっても茨城大学にとっても初めての経験であった。その意味で予定通り編集を終えてこうして発刊にいたったことは本研究会にとつて大変喜ばしいことである。なお、本史料集を仕上げるにあたって、多くの方々からたくさんのご支援・ご協力をいただいた。ここに改めて皆様方に対して、厚くお礼申し上げたい。

なかでも、今回の発行元である東海村教育委員会と実務を担当された同村中央公民館館長の永山弘明氏、史料原本の所蔵者である茨城大学図書館と同大学地域連携事業会推進本部のご支援なくしては本史料集の刊行は成し得なかった。同大学人文学部元教授・長谷川伸三氏は本史料の価値を高く評価し、大学本部へ補修申請のうえ、分冊製本して解読を可能にされた。長谷川氏には編集に際しても適切なアドバイスをいただいた。口絵に掲載した茨城県立歴史館所蔵「水戸領図」(石神組を含む)の写真撮影には同館の永井博氏のご協力をいただいた。また、拓本の写真版は田代辰雄氏の提供によるものである。改めて感謝申し上げたい。

今回の史料集刊行における成果の一つに加藤孫三郎のご子孫との出会いがあった。「石神組御用留」は公用記録であるので、加藤孫三郎の郡奉行としての人物像まではわからなかったし、分量が多いとはいえ、たった一年の記録であるため、郡奉行どうしの横の関係までは見えてこなかった。そこで研究会として加藤孫三郎に関する調査を始めた結果、茨城大学教育学部前川捷三名誉教授と酒門共有墓地管理委員会委員長栗田聰氏のご教示により、酒門共有墓地(水戸市酒門町)に加藤孫三郎の墓所があることを確認することができた。また栗田氏にはご子孫の加藤寛氏(常陸太田市在住)をご紹介いただいた。その後、加藤氏のご自宅に研究会のメンバーがお訪ねし、同家が所蔵する加藤孫三郎関係史料を閲覧・撮影させていただいた。おかげで加藤孫三郎と小宮山楓軒との親しい関係や立原翠軒との家族ぐるみの交流関係などを知ることができた。

発行までの過程は「石神組御用研究会の活動記録と出版までの経緯」に記した。編集について何度も討議を重ねて、刊行にたどり着くことができたのは「良いものを作りたい」という研究会メンバー一同の熱意によるものと自負している。以前「石神組御用留」の解読を行っていた人文学部の学生・卒業生からも協力が得られたことも有難いことであった。改めて感謝したい。

このように多くの方々のご協力をいただいて発刊した本書の原本解読・編集の分担及び編集方針は次のとおりである。

本史料集の監修は磯田、高橋が行った。事務局として茨城大学側は木戸、東海村側は河本が両者の連絡・調整を行った。原稿データの統括は主に木戸が行った。史料解読・入力等の分担については東海村と茨城大学で折半して行った。さらに解読した本文の校正は東海村と茨城大学で互いに交換してそれぞれ校正を行った。本文は記事ごとに分けて番号を打ち、関連文書には枝番号をつけた。編集方針としては

